リー就航を契機とし，以降島外への通勤・通学が可能になったため，ますます島外への労働力の流出に拍車がかかった。その結果，農業は，老年の男子及び壮年の女子の仕事となった。昭和60年の農業就業人口を見ると，男子の8割，女子の5割を60歳以上が占めている。次に，農作物の面から見てみると，2度の大きな変化があった。最初の変化は食糧増産からみかん栽培への転換である。昭和30年代に入って，西日本を中心にみかん栽培ブームがおこると，この島でもみかんが農業生産物の中心となった。しかし，昭和47年にみかん価格が大暴落し，農業生産の中心は，みかんから野菜や花卉の栽培へと移った。これが2度目の変化である。ここで重要なのは，みかん景気の時期に，江田島・能美島では，広島県の中東部の島しょのようなモノカルチャー的なみかん栽培とならなかったことである。これは，広島という大市場に近く，市場への出荷も番船という流通組織により比較的容易であったためであると考えられる。このことが，みかん価格暴落後に野菜・花卉産地への転換が早く行なわれたことの大きな要因となっている。

江田島・能美島は，江田島町・能美町・沖美町・大柿町という行政区域に分かれている。この4町の中で農業生産が盛んなのは，能美町と江田島町で，能美町は花卉，江田島町は野菜の生産が盛んである。花卉の生産が中心となっている能美町の中でも，南側の2地区（中町・鹿川）が花卉生産を主としているのに対し，北側の高田地区は野菜生産が主である。このような隣接する2地区における農業生産物のはっきりした違いが何に起因するのかを考察したところ，地形，気候，土壌などの自然条件の違いだけでなく，高田地区の持つ保守性もかなり関係しているのではないかという結論に至った。また，その保守性は，高田地区の中でもどちらかと言えば山麓に立地する農業集落にあるようであった。

この地域の将来には，急速な高齢化や農業の衰退といった暗い話題が多い中で，1つだけ明るい話題がある。それは，広島市と江田島を結ぶ「広島湾架橋構想」で，これが実現すれば，人口減少の歯止めとなるだけでなく，この島の海洋レクリエーション基地としての新たなる発展も夢ではないのである。

アーカンソー州における「住み分け」と生活基準に関する地域構造について

山　吉　章　子

アーカンソー州は合衆国南部に位置する農業州である。ボーキサイトの生産高も高く，天然資源にも恵まれている。しかし，1人当りの平均年間所得はミシシッピ州を除くと合衆国最下位であり，教育水準も低い。南部の中でも経済的文化的後進地である。

南部の一員であるアーカンソー州は，合衆国平均よりも黒人比率が高く，16.3％である。しかし，黒人の分布は州全土に一様ではない。州の東部から南部にかけて黒人は集中的に分布している。その地域では黒人比率も高く，25％以上である。それに対し，州の北部から西部にかけて，黒人の分布は見られず，その地域での黒人比率は1％以下が大部分である。つまり，アーカンソー州において，黒人の「住み分け」が観察される。（1980年センサスより）

アーカンソー州に見られる「住み分け」の形成は，州の自然環境や合衆国南部の歴史によって大きく影響されながらなされた。

アーカンソー州は地形的に2つに分けられる。オザーク，ワチタ，ミシシッピ川流域からなる高地と，西部海岸平野，ミシシッピ沖積平野，クロウリー山脈からなる低地である。州の北西部の高地は大部分が森林に覆われ，1880年頃迄に落ち着いたアーカンソー州への移民のうち，高地に定着した者は，自給用の農業を営むだけであった。しかし，南東部の土地の肥沃な低地に定着した者は，黒人奴隷を使った大規模な綿花栽培を開始し，アーカンソー州も有数の綿花栽培地を有する奴隷州になった。こうして，奴隷であった黒人はアーカンソーの低地，州の南東部にだけ集中して存在することになり，それが現在の「住み分け」

の原型となった。

「住み分け」は，差別や不平等といった問題を含んでいるが，実際に「住み分け」と地域の差に関連が見られるのだろうか。それをアーカンソー州における「住み分け」と生活水準に関する地域構造を比較することで考察を試るのが本論文の目的である。

アーカンソー州の生活水準に関する地域構造を明確にする為，州の行政単位である75のカウンティ毎に，生活水準を推察するのに適すると考える10の指標（下水設備の完備した住宅の割合，乳児死亡率，1,000人当りの死亡者数，1人当りの平均年間所得，年間所得が5,000ドル以下の世帯の割合，児童福祉手当てを受ける世帯の割合，フード・スタンプを受ける世帯の割合，失業率，高校卒業率，投票率）についての標準得点とその合計値，合成指数の算出を行った。

その結果，生活水準の高い地域は州の中央部，北西部に見られ，生活水準の低い地域は州の東部，北部中央に分布しているのが分かった。傾向としては，州の北西部の高地では生活水準が高く，州の南東部の低地では低い。

しかし，「住み分け」の図と生活水準の地域構造の図を比較すると，一概に両者は関連しているとは言い難い。例えば，黒人の比率の高い州の南部の地域でも生活水準はそれ程低いわけでなく，黒人のほとんど住んでいない州の北部であっても非常に合成指数の低い，つまり生活水準の低いと考えられる地域がある。黒人比率の高い地域では生活水準が低い，つまり「住み分け」によって，生活水準の高い地域と低い地域の分布も決定される――とはすんなり結論できない。

だが，そこで注目したいのが人口規模と都市人口の比率である。黒人比率の0に近い州の北部の地域で生活水準の低い地域では人口も1万に満たず，都市人口の比率も0に近い。逆に，黒人比率の高い地域でありながら，生活水準のさ程低くない地域では人口も大きく，都市人口の比率が高い。また，都市人口の比率も高く，人口の大きい地域（州の東部）でも，黒人比率が50％を越える地域では，生活水準は極めて低い。以上より，黒人比率ひいては「住み分け」は地域の生活水準に影響を与えると考えられる。